

産学官連携による サーキュラーエコノミーの推進

日立-産総研サーキュラーエコノミー連携研究ラボ

- ▶ サーキュラーエコノミー（CE）でSociety 5.0を推進
- ▶ CEグランドデザイン、技術開発、標準化戦略の三位一体化の取り組み
- ▶ CEに係る指標、再生資源の評価など業種連携促進の共通基盤を開発

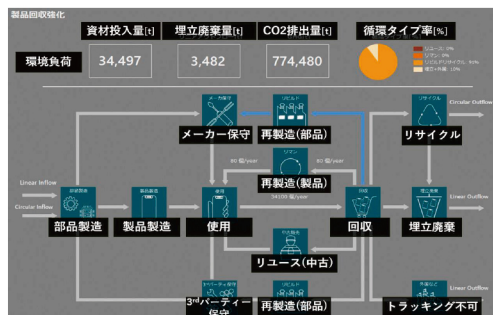
サーキュラーエコノミーとSociety 5.0

- Society 5.0の実現には、エネルギー、物質に加えて、情報・知識の循環・再利用により効率の良い製品・サービスの提供が必要。サーキュラーエコノミー（CE）は最小限の資源投入により、最大限の付加価値提供をめざす
- CEに関する研究開発推進のため、2022年10月産総研内に「日立-産総研サーキュラーエコノミー連携研究ラボ」を設置し、ライフサイクルアセスメント、資源回収、モノづくりやサービス工学をはじめとした両者の専門家40数名が共同研究に参画



Society 5.0を支える3つの循環

サーキュラーエコノミー社会実現に向けた日立冠ラボの活動

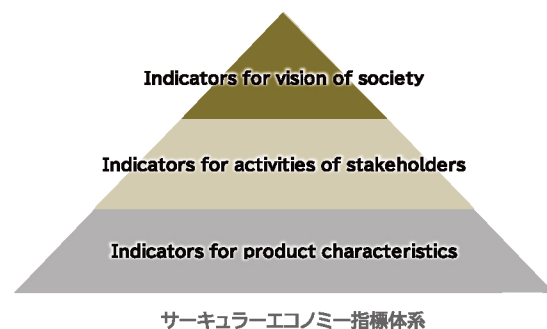


サイバー空間でのライフサイクルシミュレーション

- テーマ1:サーキュラーエコノミー社会のグランドデザイン CE将来像とそれに向けたロードマップ作成
- テーマ2:
CE社会に必要なデジタルソリューション、資源循環促進のためのサイバーフィジカルシステム(CPS)の開発
- テーマ3:標準化戦略の策定
CE社会における資源の品質特性(グレーディング)について検討

共通基盤としてのサーキュラーエコノミー指標

- サーキュラーエコノミー社会に対する貢献や達成度を定量的に見積もるため、社会的共通基盤として指標体系を整備する
- 社会全体の目標から製品特徴に関わる数値まで、概念レベルの異なる指標の関係性を整理、体系化することで、得られた各種データから目的とする指標を計算可能とする
- 国際標準化機構ISO/TC323、WBCSD、国内サーキュラーエコノミーに関する産官学パートナーシップ(CPs)提案の指標体系とも整合を図る



問合せ先：日立-産総研サーキュラーエコノミー連携研究ラボ
<https://unit.aist.go.jp/hitachi-cecrl/index.html>
M-haistcelab-ml@aist.go.jp